

いざなぎのみことの妃このはなのさくやひめ ご祭神も大喜び

逆井中246人 神社清掃



↑ 叱咤激励する五味田校長

終わりの整列。それを知っているのに、灯籠に寄りかかって芋煮を食べている生徒がいた。五味田校長の叱咤激励の声。少し湿っぽい落葉の書き集めに疲れたんでしょうね。

逆井中の神社清掃は5回目になるのだろうか。濱田重道校長が2回、小川信一校長、伊菅宏(いすげひろし)教頭と続き、五味田校長となる。氏子の人たちは、中学生の清掃隊に合わせて、お宮の屋根の落葉落としや内部の掃除、初詣客を迎える準備をする。

中学生は七つの部活の集まり。参加者246人は最多。全員に天神様の学業御守が授与された。



神代の昔のことである。高天原から天孫降臨されたいざなぎのみことは、道で乙女に会い、「われ汝に目会(まぐあい)むと欲ふ」という。乙女は父親に相談する。父親はOKを出し、姉も添えると言う。さきの乙女が、このはなのさくやひめで、逆井浅間神社のご祭神である。

六年前から浅間神社、弁天様、天神様の三か所に逆井中学の生徒が歳末清掃に来る。校長先生が率い、氏子さんたちと新年を迎える手伝いをする。去年は雨もよいの27日だった。

生徒とともに見える校長は男性ばかり。それが二年前、女性校長がお目見え。五味田博美(いづみひろみ)先生である。このはなご祭神は喜ばれた。ところが現し身の校長さんが風邪でダウン、やっと昨年の登場となる。ご祭神に申し上げ、記者は五味田校長に風邪などひかれぬようお願いした。本殿の奥で、時空を越えた出会いが実現したはずである。校長は黙して語らないけれど。校長はこんなメルヘンが実現した歳末でした。

女性校長に会い以心伝心



「ふたつの大なべに芋煮のご馳走を作っているのは、子ども・学校支援ボランティア「十色」という。咲かそう会のおばさんたち。昨年創立10周年を迎えた。前日の朝から準備した。

秋山浩保・柏市長が挨拶の中で、芋煮を何杯食べたか聞かれていたが、五、六杯の声が上がったのには驚いた。